

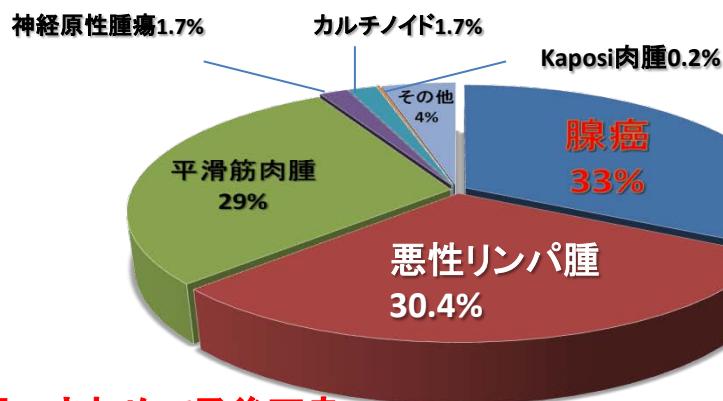
第63回カンサーボード開催のお知らせ

平成23年2月2日(水) 18:00~19:00

場所: 附属病院4階第1会議室

テーマ: 造血細胞移植の原理と適応

第62回カンサーボード報告「カプセル内視鏡」



- 小腸検査の必要性
- 小腸腺癌の悪性腫瘍

- 小腸腺癌の予後
- 5年生存率 20~30%

非治癒切除例の50%生存期間: 約10カ月⇒きわめて予後不良

理由: 発見に有用な診断技術が乏しかったため、診断時点で病気が進行していることが多い
まれな疾患であるため、進行・再発癌例に対する標準的な化学療法が確立していない

カプセル内視鏡は小腸疾患を疑う症例の検査として大変有用な検査である

- カプセル内視鏡の概要と歴史

被験者が自ら飲み込むだけで検査ができるカプセル型の小型内視鏡
世界で1,000,000件以上

- 2000年 Nature, Vol.405:25
- 2001年 欧米で認可 (FDA許可CEマーク取得)
- 2003年 日本での治験
- 2004年 PillCam ESO (食道用)
Patency capsule (通過障害確認用)
- 2006年 PillCam Colon (大腸用)
- 2007年 日本で保険収載 (10月1日)



- 今後の展望

小腸悪性疾患の早期発見・早期治療・予後改善
大腸カプセルによる大腸癌スクリーニング
胃カメラの代用としての可能性

小腸用カプセル内視鏡システム



1. カプセル内視鏡本体
PillCam SB (小腸用)



2. データレコーダ
(カプセルから送信される画像データを記録する)

3. ワークステーション
(読影用ソフト: RAPID 4)
Reporting and Processing of
Images and Data



今回は、24名の方にご出席いただきました。ありがとうございました。

- お問い合わせ先

がんプロフェッショナル養成プラン 岡野・川副 (内線2623)
附属病院経営企画 茜ヶ久保 (内線2807)